山下　高行教授　略歴と業績

Ⅰ．略　　歴

1954年１月　東京都中目黒に生まれる
1977年　東京教育大学体育学部体育学科体育社会学専攻卒業
1979年　中央大学文学部哲学科社会学専攻卒業
1986年　筑波大学大学院体育学研究科スポーツ社会学専攻博士課程単位取得退学
　　立命館大学経済学部助教授を経て
1994年４月　立命館大学産業社会学部助教授
1998年４月　立命館大学産業社会学部教授
2019年３月　立命館大学定年退職
2019年４月　立命館大学名誉教授

（主な学内役職歴）

1992年４月～1993年３月　二部協議会学生主事
1997年４月～1998年３月　調査委員長
2002年４月～2003年３月　産業社会学部副学部長
2005年４月～2006年３月　保健体育教室主任
2009年４月～2011年３月　産業社会学部副学部長
2011年７月～2014年７月　大学評議員

Ⅱ．専門分野

専門分野　スポーツ科学，社会学（含社会福祉関係）
担当科目　スポーツ社会学，スポーツボランティア論，人間と文化，スポーツ社会学研究
学位　教育学修士（筑波大学）
研究課題　(1) スポーツと権力
　　(2) 英国カルチュラススタディズとレジャー・スポーツ研究
　　(3) ボランティアと変革主体
所属学会　日本社会学会，国際スポーツ社会学会，日本スポーツ社会学会

Ⅲ．主な研究業績

著　　書

1．（共著）「『スポーツ＝プレイ論』の特徴と問題点」「スポーツ技術・科学の開放と体制」（伊藤高弘・草深直臣・金井淳二編，『スポーツの自由と現代（上）』，青木書店，1986年）87-104・221-241頁

2．（共著）「スポーツ社会学における“再生産”と“生産”の論理」（『新しい体育・スポーツ社会学をめざして』，道和書院，1991年）１-20頁
3．（共訳著）『現代社会とスポーツ』（Peter McIntosh 著，寺島善一・岡尾恵市・森川貞夫編訳，大修館書店，1991年）44-86頁
4．（共訳著）『スポーツ・レジャー社会学―オールタナティブの現在』（D. Jary・J. Horne 著，清野正義・山下高行・橋本純一編著，道和書院，1995年）２-34・36-64・84-128頁
5．（共著）『変容する現代社会とスポーツ』（日本スポーツ社会学会編，世界思想社，1998年）43-61・64-67頁
6．（共著）「グローバリゼーションとスポーツ；ノルベルト・エリアス，ジョセフ・マグワィアの示す像」（有賀郁敏他共著，『近代ヨーロッパの探求⑧スポーツ』，ミネルヴァ書房，2002年）365-387頁
7．（共訳著）「文化のグローバル化」（デヴィッド・ヘルド編，中谷義和監訳，『グローバル化とは何か』，法律文化社，2002年）51-93頁
8．（共訳著）「第四章，社会的再生産と勤労福祉国家」（ボブ・ジェソップ著，中谷義和監訳，『資本主義国家の未来』，御茶の水書房，2005年）199-243頁
9．（共著）“The changing Japanese field of Sport”（Joseph Maguire and Masayoshi Nakayama (eds.) Japan, Sport and Society; Tradition and Change in a Globalizing World, London, Routledge, 2006）pp.157-176
10．（共編著）「ジョン・ハーグリーヴス再論―英国スポーツの社会史的展開とグローバリゼーション研究―」（有賀郁敏・山下高行共編著，『現代スポーツ論の射程』，文理閣，2011年）350-377頁

論　文

1．（単著）「スポーツ技術論の研究視角の検討―特に技術の「社会的把握」の論理を手がかりとして―」（『体育・スポーツ社会学研究３』，体育・スポーツ社会学研究会編，道和書院，1984年）63-77頁
2．（単著）「４．スポーツの外部構造，Ⅰ．スポーツと道具・施設―その把握の視点と課題―」（体育原理専門分科会編『スポーツの概念』，不昧堂出版，1986年）211-215頁
3．（共訳著）「全米大学競技協会；その社会経済学的分析」（菊 幸一・斉藤健司，J. W. ロイ Jr，ケニヨン，マクファーソン著，粂野豊編訳，『スポーツと文化，社会』，ベースボールマガジン社，1988年）
4．（単著）「スポーツ競技力要因の分析と国際比較」（『立命館大学人文科学研究所別冊』５号，1988年）149-155頁
5．（単著）「国民スポーツ運動の高揚と国民の教育権・スポーツ権」（『国民運動文化の創造』，学校体育研究会編，大修館書店，1989年）160-165頁
6．（単著）「『スポーツの産業化』に関する研究ノート」（『立命館大学人文科学研究所紀要』第６号，立命館大学人文研究所，1989年）71-95頁
7．（単著）「現代青年の意味世界と遊び」（『立命館教育科学研究』第１号，立命館大学教育科学研究所，1991年）27-42頁
8．（共著）『現代青年・学生の意識構造に関する総合的研究』（加藤直樹・赤井正二・荒木穂積他，立命館大学教育科学研究所，1993年）
9．（単著）「スポーツ論小考―ポストモダンの時代認識の中で」（立命館大学経済学会・保健体育教室編，

『スポーツ科学と人間』，文理閣，1993年）159-170頁

10. （単著）“Life-World, Power and Sports: On the Arguments about a New Theoretical Framework of Sports Sociology”（*The Pursuit Of Sport Excellence: The '95 Seoul International Sport Science Congress Proceedings Volume 1,* KAHPERD, Korea, 1995）pp.312-327
11. （単訳著）「フランスにおけるスポーツの場の構造と展開（1950-1990）―「機能的」，歴史的，予測的分析試論―」（ジャック・ドウフランス／クリスチャン・ポシエロ著，『立命館大学産業社会論集』第32巻４号，1995年）231-252頁
12. （共著）「ヨーロッパ・スポーツ社会学の動向と国際シンポジウム」（菊 幸一，日本スポーツ社会学会編，『スポーツ社会学研究』Vol.4，法政大学出版，1995年）１-12頁
13. （共著）「ピープル：フイットネス・サービスの事業展開」（種子田 穣，『立命館経営学』第35号，立命館大学経営学会，1997）170-198頁
14. （共著）「スポーツ社会学の可能性」（伊藤公雄・菊 幸一，吉見俊哉，『スポーツ社会学研究』Vol.5，日本スポーツ社会学会編，法政大学出版，1997年）１-42頁
15. （共訳著）「マルクス主義，これまでとこれから」（デーヴィッド・マクレラン著，坂なつこ共訳，『立命館言語文化研究』Vol.8，1997年）141-156頁
16. （単著）「変化するスポーツを取り巻く問題群」（『日本の科学者』，日本科学者会議編，水曜社，1997年）５-10頁
17. （単著）「まじめの支配と近代スポーツ」（亀山佳明・井上 俊編，『スポーツ文化を学ぶ人のために』，世界思想社，1999年）
18. （単著）「スポーツのさまざまな国境の越え方」（中村敏雄編，『越境するスポーツ』，創文企画，1999）67-102頁
19. （単著）「2002ワールドカップ・サッカー大会韓日共同開催と日本における生活体育の振興」（*2002 FIFA WORLD CUP KOREA JAPAN,* KAHPERD, Korea, 1999）pp.55-70
20. （単著）“The Politics of Representation; Nagano, Re-Inventing Japaneseness in the Global World Order”（*Sport and Politics,* Proceedings of the KAHPERD, Korea, 2001）pp.179-194
21. （単著）「美術館の美術教育―ロンドンナショナルギャラリーの調査」（『マルチメディア時代に対応した総合芸術のファカルティディベロップメント研究』，1999-2000年度科学研究費補助金基盤研究〈B〉〈2〉研究成果報告書，代表：遠藤保子，2002年）26-38頁
22. （共著）“Another Kick Off; the 2002 World Cup and Soccer Voluntary Groups as a New Social Movement”（SAKA Natsuko, in John Horne and Wolfman Manzenriter <eds>, *Korea, Japan and the FIFA World Cup 2002,* London Routledge, 2002）pp.149-161
23. （単著）「2002 FIFA ワールドカップとサッカーサポーター活動」（『日本の科学者』vol.37，日本科学者会議編，2002年）10-15頁
24. （単著）「スポーツとナショナリズム：変化の過程にある関係性」（『現在のナショナリズム』唯物論研究第８号，唯物論研究会編，青木書店，2003年）173-188頁
25. （単著）「グローバリゼーションと人，文化」（佐藤嘉一編，『方法としての人間と文化』，ミネルヴァ書房，2004年）183-202頁
26. （単著）“The 1998 Nagano Olympics: Japaneseness and Globalism in the Opening Ceremonies”

（William W. Kelly, Sugimoto Atsuo <eds>, *This Sporting life-Sports and Body Culture in Modern Japan,* Yale Ceas Occasional Publications Vol 1, Council on East Asian Studies Yale University, 2007）pp.125-141

27. （単著）「企業スポーツと日本のスポーツレジーム」（『スポーツ社会学研究』17巻第２号，日本スポーツ社会学会編，創文企画，2009年）17-31頁
28. （単著）「スポーツとヘゲモニー；J. ハーグリーヴス『スポーツ・権力・文化』」（井上 俊・伊藤公雄編，『社会学ベーシックス８　身体・セクシュアリティ・スポーツ』，世界思想社，2010年）229-238頁
29. （共著）「マルクス主義的スポーツ研究の課題と展望：日本とイギリスの研究からその変遷と課題を素描する」（市井吉興，『スポーツ社会学研究』19巻１号，日本スポーツ社会学会編，創文企画，2011年）55-72頁
30. （単著）“Indeterminate nationalism represented in the last twentieth century Olympic Games, the 1998 Nagano Winter Olympics”（*The International Journal of the History of Sport* <Vol.28, Number16>, Special Issue: The Triple Asian Olympics: Asia Rising-The Pursuit of National Identity, International Recognition and Global Esteem, Routledge, 2011）pp.2323-2338
31. （単著）「塩花の木々バスに乗る―日韓労働組合運動の共通課題」（『日韓の理解・責任・未来のための提言集会』報告書，国際ハン民族財団・立命館大学コリア研究センター・建国大学校統一文学研究団，2014年）76-85頁（日本語）・86-95頁（韓国語）。
32. （単著）「스포츠의 ‘장場’에서의 ‘상황의 반전’과 현재의 스포츠 사회학연구（The reverse of situation in the field of sports and the contemporary study of sport sociology）」（*Korean Sociological Review* 2015, Vol.6）pp.1-23
33. （共訳著）「権力，政治とオリンピック―2010年バンクーバー大会及びその他の事例から―」（ピーター・ドネリー著，山下高行・熊澤拓也共訳，『スポーツ社会学研究』第23巻第２号，日本スポーツ社会学会編，創文企画，2015年）３-22頁
34. （単著）「マルクス主義とスポーツ思想」（中村敏雄他編，『21世紀スポーツ大辞典』，大修館書店，2015年）653-656頁
35. （単著）「『マルクス主義スポーツ論』についての検討（中間小報告）」（新日本スポーツ連盟付属スポーツ科学研究所年報『現代スポーツ研究』第２号，2017年）69-77頁
36. （共著）「『東京オリンピック・パラリンピックに関する研究』プロジェクトの中間報告」（川口晋一・山下高行，『立命館産業社会論集』第54巻第１号，2018年）11-28頁

そ の 他

1．（共著）『斑鳩町民の生涯学習に関する意識実態調査』（斑鳩町教育委員会，1992年）
2．（共著）『学びの里斑鳩―斑鳩町生涯学習基本構想』（斑鳩町教育委員会，1992年）
3．（単著）「もっと気楽にスポーツを」（京都新聞，1992年３月20日朝刊）
4．（単著）「スポーツの目：気楽にプレーを楽しむ」（京都新聞，1993年２月９日朝刊）
5．（単著）「今イギリスがおもしろい―ポストモダンのレジャー・スポーツ論」（『日本スポーツ社会学会会報』第４号，日本スポーツ社会学会，1993年）

6．（単著）「国際動向：イギリス・スポーツ社会学の新しい動向」（『運動文化研究』Vol.11，学校体育研究同志会編，1993年）
7．（単著）「身体論の地平―ジョン・ホーン講演の解題」（『スポーツ社会学研究』Vol.2，日本スポーツ社会学会，1994年）19-22頁
8．（単著）「97国際シンポジウムに向けて―ヨーロッパ・スポーツ社会学者との交流」（『日本スポーツ社会学会会報』第12号，日本スポーツ社会学会，1995年）
9．（単著）「研究会レポート：日本スポーツ社会学会国際学術会議『スポーツは世界を変える』」（『学校体育』Vol.5，日本体育社，1997年）
10．（単著）「日本スポーツ社会学会国際学術会議」（『体育の科学』Vol.6，杏林書店，1997年）
11．（単著）「世の中探見：グローバリゼーションの中で」（毎日新聞，1997年５月29日朝刊）
12．（単著）「モントリオール世界社会学会大会に参加しての印象記」（『日本スポーツ社会学会会報』第21号，日本スポーツ社会学会，1998年）
13．（単著）「2002日韓Ｗ杯―誰のために，何のために」（『たのしい体育・スポーツ』No.115，学校体育研究同志会，2000年）
14．（単著）「Ｗ杯をどう見るか―韓日シンポジウムで思ったこと」（『たのしい体育・スポーツ』No.116，学校体育研究同志会，2000年）
15．（単著）「サッカー・ワールドカップ（FIFA）」（西川長夫・大空 博他編，『グローバル化を読み解く88のキーワード』，平凡社，2003年）141-143頁
16．（単著）「海外研究動向―グローバリゼーション研究とスポーツ～英国から」（『運動文化研究』Vol.l22，学校体育研究同志会，2004年）142-147頁
17．（単著）「イラク戦争後のアテネ大会と英国スポーツ界―バリー・ホウリハン教授（国際関係論・ラフバラー大学）に聞く」（『体育科教育』Vol.7，大修館書店，2004年）
18．（共著）『祭・芸能・行事大辞典』（小島美子・鈴木正崇他監修，朝倉書店，2009年）
19．（単著）「スポーツと政治」（『社会学事典』，日本社会学会社会学事典刊行委員会編，丸善，2010年）574-575頁
20．（単著）「スポーツと階級関係」「マルクス主義」（井上 俊・菊 幸一編，『よくわかるスポーツ文化論』，ミネルヴァ書房，2011年）46-47・178-179頁

Ⅳ．社会における活動

国際スポーツ社会学会（ISSA）理事
日本スポーツ社会学会理事

以上